

のであらうか。彼等が最後の食物にありついてから今日は幾日目であらうか。傷ましくもまた強いものは生きてゆく力である。「死それ自身も人間の廢墟に残された此生ほどに神秘的ではない」といふ語を思ひ出す。二人は私の前にたつて灯の方へゆく。二人の運命を問ふ聲が響く。男は何か望あるものの如く。女はありたけの力で男の手を握りながらも猶そのはなさるるを怖るゝものの如く。

小 さ き 愛

人の世に人と生れて生きながら我なほ人を愛しえであり。途に我愛しえぬてふものならば愛せであらむされど淋しや。我が愛は小さな愛一日に幾度となくうつりかはります。我が胸に張りみつる愛この愛のどこしへにあれ生きのしるしに。わが心にくみてふものいづこにもなしといひ得ぬこの淋しさよ。こゝろにもなき事をいひ心にもなき笑みをせしあとの淋しさ。思ふこと語り合ひにし嬉しさに早やつづきくるこの淋しさよ。淋しさはうれしきものよこの心たえむ日いかに淋しからまし。淋しさをせめてやらむと父母の名もよびて見ぬゆく春の宵。